



国宝復元模写の巨大仏画が展示されている「21世紀の文化遺産展」

彩り豊か 巨大仏画一堂に

国宝復元模写の仏画を公開する「21世紀の文化遺産展」が、能代市文化会館で開かれている。巨大で豊かな彩りの仏画が来場者の目を楽しませている。21日まで。

展示されているのは、原画がそれぞれ国宝に指定されている「阿弥陀聖衆来迎図(あみだしょうじゅらいごうず)」や「仏涅槃(ぶつねはん)絵図」、重要文化財の「胎蔵界曼荼羅(たいざうかいまんだら)」など9点。5並四方の大きさの4作品が会場の一角を覆い、ひとときわ目を引いている。

能代で文化遺産展 21日まで

仏画の原図や資料を研究し、仏画の復元に取り組む金子環さん(83)＝都内住＝が下書きを担当。それを基にチベットラマ僧10人が制作したという。仏画には災害や事件で亡くなった人々への鎮魂の祈りが込められている。

金子さんは「国宝を多くの人に見てもらいやすいよう復元した。仏画はおよそ500年で元の色が失われてしまうが、復元することで後世に伝えたい」と話している。

入場無料。午前10時～午後5時。(加藤大輝)